

鹿児島県生物教員等ネットワークは、2011年に発足しました。当初は、鹿児島大学の研究費補助金「学長裁量経費」の一つのプロジェクトとして、山根正気先生（現在鹿児島大学大学院理工学研究科（理学系）名誉教授）が補助金を獲得して始められたものです。

鹿児島県を中心とした地域の生物多様性をモニタリングしていくためには、大学の研究者だけではなく、広く一般の皆様にも関心をもってもらい、できれば調査にも参加して頂く必要があります。そのために、ある程度の専門的な知識を持ち、かつ、市民の皆様との繋がりも深い、学校の生物系教員の皆様が参加できる組織作りが必要ではないかとの会が発足しました。さらに、数年で転勤していく教職員が、より地元の情報にアクセスするためには、地域の自然に注目している方々とのつながりも大切と思っています。ですから、会の正式名称に「生物教員等」とありますが、自然に対して興味関心を持っている方は誰でも会員になれます。

ちなみに、会の俗称「shikagaku」は、鹿児島の鹿にかけています。鹿児島の学問、略して鹿学です。

このプロトコール集は、高度な専門的な知識の無い人でも、簡単に身近にある資料を用いて生物調査が行える方法を一般に伝えるために企画されました。これまでにNo.1～No.3まで3集が出版されました。執筆は、それぞれの生物分野の専門家の皆様方に、一般の方々にも解りやすいように書いて頂けるようお願いしました。

今回の「生物多様性モニタリング プロトコール集 No.4」は、これまでの号ではあまり取り上げなかった海産生物の調査方法を解りやすく書いていただきました。水生生物も多種多様な生物がいますので、これからも、水生生物の調査方法も積極的に採り上げていきたいと思えます。

鹿児島大学の研究費補助金「学長裁量経費」がいつまで続くのか不透明な部分もありますが、出版物として出せない事態になったとしても、ホームページ上での公開という形で、長く続けていきたい活動とするつもりです。

また、「生物多様性モニタリング プロトコール集 No.4」が、印刷部数100部程度の限定出版物のため、一般にあまり行き渡らず、ほとんど知られていない、という問題点があります。また、これらプロトコール集に書かれた調査方法を実践されて、具体的な調査結果を出した場合、どこで公表していけば良いのか、というアウトプットの問題も生じます。これらの問題点を解決する方法として、鹿児島県の生物系のロ

ーカル雑誌として歴史もあり、広く流通している Nature of Kagoshima (鹿児島県自然環境保全協会発行) を活用するという事も案として考えています。次のプロトコール集 No.5 の原稿を Nature of Kagoshima に投稿し、別刷を多めに印刷して配布用とすれば、一般に周知させる問題はある程度解決できるのではなかろうかと考えています。また、調査の成果を Nature of Kagoshima に投稿する形態にすれば、中学生や高校生でも、誰もが気軽に発表できるのではないのでしょうか。原稿の書き方や投稿のやり方を shikagaku メンバーがアドバイスするという役割分担も考えられます。

ともあれ、shikagaku の活動は、これまでのように、年数回の公開シンポジウムの開催、メーリングリストの維持、生物多様性モニタリング プロトコール集の出版、という 3 本柱を維持しつつ、息の長い活動を展開していきたいと思います。皆様方の御支援をお願い致します。

(富山清升・金井賢一)

鹿児島県生物教員等ネットワークの HP

<http://shikagaku.synapse-blog.jp/top/>

過去のプロトコール集も全て pdf で閲覧・印刷ができるようになっています。

ぜひご利用ください。

#### ○shikagaku への参加申し込み

shikagaku は会費無料の組織です。

参加を希望される方は、金井までメールでお申し込みください。

金井のメールアドレス [viola-kk@po.synapse.ne.jp](mailto:viola-kk@po.synapse.ne.jp)

メーリングリスト：shikagakuML に登録いたします。

なお、shikagakuML では所属と氏名、メールアドレスは公開となっています。所属は住所でもかまいません。

お気軽にご相談ください。